



ヒイラギ [柵]

常緑 / 中高木 / 木本植物 / 在来種



科名 モクセイ科 (APGⅢ)

特記 生長：やや遅い、雌雄異株

葉には鋭い刺状の鋸歯があり、触ると「疼ぐ（ひいらぐ）」ことからヒイラギと呼ばれる。昔から邪気を防ぐ縁起木とされてきた。葉に斑が入る品種や葉の丸い品種もあり、周囲の配植や用途に合わせて選定できる。老木や樹冠に近い葉は刺が少なくなり、丸い葉が多くなる。



Memo

モチノキ科のセイヨウヒイラギ(ホーリー)と似ているが、モクセイ科のヒイラギは葉が対生につく。

お手入れカレンダー	月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
	花期												
	果実												
	紅葉												
	施肥												
	剪定												

★：花芽分化の時期（分化後に剪定すると花付が少なくなる）

好みの環境			
日当たり	陽	○	○
土壌	乾	○	○
寒さ	強	○	○
暑さ	強	○	○
潮風	強	○	○

観賞ポイント	姿	○	○				
	花						
	葉						
	紅葉						
	実						○

ポイント 9～11月に白い花をつけるが、キンモクセイほど香りが強くない。実用的な用途として、進入禁止場所や防犯目的の配植に効果的。「ヘリグロテントウノミハムシ」が発生したら早めに対処する。

剪定 生長は遅いが萌芽力があり強剪定に耐えるので、生垣や刈り込みに利用できる。生垣は5月、7月、10月の年3回剪定すると維持しやすい。5月は葉に食害がないか確認しながら剪定するとよい。

病虫害 「ヘリグロテントウノミハムシ」が発生することが多い。ヒイラギモクセイ、ネズミモチにも見られ、食害されると跡が茶色に変色し見苦しくなる。4月下旬から5月の幼虫発生初期に対処するとよい。